

塾長、今日も全力。

——伊藤公平塾長のとある一日



慶應義塾のリーダーである「塾長」。2021年5月に就任し、2025年5月から2期目を迎えた伊藤公平塾長だが、式典やインタビュー記事で見るとはあっても、実際の人となりを知る機会は少ない。

「塾長ってどんな人？」——一日のスケジュール、盟友・早稲田大学総長からのまなざし、塾生が気になる塾長の素顔——慶應義塾の未来のために真っすぐ突き進むその背中を追いかけてみよう！

塾長の一日に密着！

6:00

起床

一日のエネルギーの源、朝食はしっかり食べる。家族との会話を楽しみながら、プロテイン源の豆乳をしっかりと飲む。

8:00

校用車で出勤

家族に見送られ、三田キャンパスに向けて出発。自宅を出たら仕事モード。「慶應義塾の目的」を声に出して唱える。車の中でメールの確認・返信を済ませ、原稿の執筆やプレゼン資料の作成も。



慶應義塾の目的



塾内会議

塾内の会議に出席。塾長と常任理事が一堂に会し、義塾の運営に関わる重要事項について議論を交わす。



10:00

9:00

オフィス到着

オフィスに到着したら早速、秘書と当日の予定確認や打ち合わせ。



デスクには愛用の文具や海外大学からのお土産が並ぶ

昼食

12:00

健康弁当が定番。玄米ご飯と、薄口の主菜。中でもお気に入りには卵焼きと野菜。この日はランチミーティングも兼ねて。

校用車で移動

車中では資料に目を通したり、Webミーティングを行ったりすることも多い。スケジュールの詰まった日々の中では、移動の時間も有効活用する。

13:00

中央教育審議会に出席

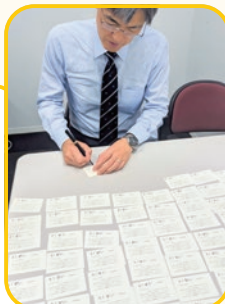
この日は委員を務める「中央教育審議会」の総会に出席。文部科学省に設置された機関として、教育・学術・文化に関する重要事項について審議する重要な会議。組織や国公立・私立といった枠を越えて、未来の日本を教育・研究の現場からつくり上げる意気込みで参加している。

14:00





合間にこんな仕事も！



お礼のカード一枚一枚に、直筆でサイン中

16:00

職員と打ち合わせ
三田キャンパスに戻ってくると早速待ち構えていた職員と打ち合わせ。アポイントメントは毎日次々に入ってくる。

16:30

原稿の作成

予定の合間を縫って、執筆依頼のあった原稿を作成。多いときは月に10本超の依頼がくることも。分かりやすい表現を心がけ、問題提起や読者との対話をするつもりで執筆する。

17:00

三田キャンパスを出発

17:30

ジムでトレーニング

全力で校務と向き合うためには、健康が不可欠。器具を使ったトレーニングで体力の維持。学生時代から続けているテニスを通じて、国内外の幅広い方たちとのコミュニケーションを図ることも。

18:00

20:00

帰宅・夕食

家族と食卓を囲む団欒のひととき。



密着を終えて

伊藤公平塾長



私の一日は期待とおりの内容だったでしょうか？ 塾内の打ち合わせ、学外での活動と、慶應義塾の仕事と日本全体のための仕事が交差する毎日ですけれども、その中でも慶應義塾の目的を唱えながら仕事を整理して、全力で取り組むことに努めています。ここまで密度の高いスケジュールを秘書の皆さんはよく間違えずに作ってくれたと思います。この記事を通して、日頃の様子や、慶應義塾への思いが少しでも皆さんに伝われば幸いです。

早稲田大学 田中総長からの寄稿

伊藤公平塾長の度量により深まる早慶の絆



早稲田大学
田中愛治 総長
たなかあいじ

伊藤公平塾長に初めてお目にかかったのは、2021年5月31日（月）だったと記憶しています。伊藤さん（慶應義塾の伝統で福澤諭吉先生以外は先生とは呼ばないので、お互いに「さん」付けで呼び合っています）が塾長に選出されて間もなく、5月28日（金）の塾長就任直後の31日（月）午前中に早稲田にいらつしやるとのアポが入りました。

塾長に就任してすぐに早稲田の総長に会いたいというアポを入れていただき、少々緊張してお待ちしていました。伊藤さんの家柄のことも、アメリカの名門カリフォルニア大学バークレー校で修士・博士課程を修了してマヨロを取得されたことも新聞などで読んで知っていました。また慶應の理工学部の教授として海外の友人の教授と連携してクォーター制（4学期制）での授業を実施したという新聞記事を読んだ記

憶がありましたので、きつとすごい人物だろうと思って待ち構えていました。会ってみたら、とても気さくで親しみやすい方で、ほっとしたことを覚えていています。二人とも体育会出身で、アメリカの大学院でマヨロ取得という共通点もあり、親しみが増しました。

私が「なぜ早稲田に最初にいらしたのですか」とお尋ねしましたら、伊藤さんは躊躇なく「早稲田がコロナ禍の対応でベストでしたので、教えを請いに参りました」とあっさり本音をおっしゃる姿が爽やかで、度量の広さを感じ、私も早稲田のコロナ対策を包み隠さずお話ししました。慶應義塾は早稲田より24年先輩の大学ですが、早稲田から学ぶとおっしゃる度量に感銘を受けました。

私が返礼に7月に三田に伊藤さんをお訪ねしたときに、私の方から伊藤さんに「なぜ塾員と塾生は、愛校心が強

いのですか」とお尋ねしましたら、即座に「新入生全員に『福翁自伝』を無償で配布して、読んでもらっています」とお答えになりました。それで、私も2021年9月に早稲田の歴史学の教授に依頼して『大隈重信と早稲田大学』を書いてもらい、2022年の入学式から新入生全員に無償配布しています。早稲田が慶應に学ぶことも多いです。

そのとき以来、伊藤さんは「早稲田と慶應は、スポーツだけは絶対負けたくないライバルだけど、盟友なのだから連携しよう」とおっしゃってください、互いに携帯電話でもメールでも連絡を取り合っています。今後も、慶應と早稲田は共に日本の教育を変革するために連携していきます。伊藤さんの度量の広さのおかげで盟友としての早慶の絆は一層強くなっています。

塾長に一問一答！ 塾生が気になる塾長の素顔

塾生がコンテンツを企画・製作する慶應義塾Web連載「Keio LIFE」が2026年度から始動します。これに携わる塾生編集部4名が伊藤塾長に率直に質問しました。



全文はこちら

Q 塾長にも失敗談はありますか？ (西出君)

A いきなり厳しい質問ですね(笑)。もちろんあります。時々、考え事をしていて予定を忘れてしまう。例えば車での移動中に塾長としての職務や慶應義塾の今後について思索しているのですが、考えているとあっという間に時間が経ち、気がつくとリモート会議の予定時間が過ぎている。ご迷惑をおかけした方には、あらためてこの場を借りてお詫びします。

Q 最近面白かったエンタメ作品は？ (宮家君)

A 映画では『ミッション：インポッシブル』最新作や『国宝』ですね。友人である石黒賢さんが主演した舞台『反乱のボ



文学部社会学専攻4年
よしお さらさ
吉岡更紗君

法学部政治学科2年
もり い さら
森居紗蘭君

総合政策学部2年
みや けい しょうせい
宮家隆成君

文学部美学美術史学専攻4年
にし しょう ま
西出脩真君

Q 今、行ってみたい国や地域は？ (吉岡君)

A 今は「トルコ」ですね。これまで多くの国を訪れましたが、トルコには行ったことがありません。そしてなにより妻が伝統装飾美術のモザイクが好きなので、トルコモザイクと一緒に見たい。また私自身としては欧州で1週間ぐらいスキー三昧の旅をしてみたいです。ただ、いずれも塾長の任にある間は難しいと思うので、将来の楽しみとしてとっておきます。

Q なぜ研究者の道を選ばれたのですか？ (吉岡君)

A もともとは経済学部に進学し、ビジネスの道に進むつもりでした。しかし父から「経済学は大学院でも学べる。まずは技術を学びなさい」と说得されて理工学部に進路希望を変えたのです。そんな父の助言を受けての学部選択でしたが、いざ研究に取り組むと夢中になりました。「好き、楽しい、面白い」。それが研究者になった最大の動機です。

A

慶應義塾大学は10学部・14研究科を有する総合大学ですから、たくさんあると思います。現在Webサイトで一部学部の「研究者紹介動画」をリリースしています。それを見るとAIをはじめとする先進テクノロジーだけでなく、地域研究、国際交流、福祉・弱者救済など各分野からよりよい社会をつくるための多彩な研究が進められていることが分かります。

Q

現代に慶應義塾が生み出せる価値とは？（森居君）

「ヤージュ」も良かった。また終戦80年ということで歴史学者・加藤陽子さんの戦争に関する著作を読み直しています。ご質問のエンタメではありませんが、教育者として「戦争」について考えることは大切なことだと思っています。

A

AIはあくまでもツールであり、主役は人間です。慶應義塾大学の「実践的人間学」の伝統を踏まえ、2024年7月、慶應義塾大学グローバルリサーチインスティテュート（KGR）に「X Digitalセンター」を開設しました。まさに現代における「人間性」や「教養」の価値、人間の「尊厳（Dignity）」について、領域横断的な研究開発を進めていきます。

Q

AI時代の「人間らしさ」「教養」の価値とは？（森居君）



A

従順なAIばかりと対話しないで、リアルな友人との付き合いの時間をできるだけ作ってください。皆さんも社会に出れば、相性が良くない人、意見が合わない人など自分と異なる意見の人々との合意形成を繰り返していくことになります。授業やゼミ、あるいはサークルなどで議論する機会は人間としての成長のチャンスだと考えてください。

Q

大学生活で心掛けるべきことは？（宮家君）

A

AIの目覚ましい進化は私たちの日常に大きなインパクトをもたらしています。一方で、人間そのものは有史以来大して進化していません。福澤諭吉は幕末から明治の激動の時代を30代までひたすら学び、自分の役割を探す日々を送っていました。AI革命の最中に生きる若い世代こそ、福澤のように「学び続ける」意志を持ち続けてほしい。

Q

AI時代を生きるために必要なことは？（西出君）

質問を終えて

一学生として、学問と人間としての在り方について大変勉強になりました。これからの人生の指針に役立てたいと思います。

西出君

最初は緊張していたのですが、時間が経つにつれて楽しく話すことができました。ぜひまたお話ししたいです！

宮家君

塾長のお考えやフランクな一面に触れ、輪郭が鮮明になりました。学生と同じ目線でお話をしていただけでうれしかったです。

森居君

「進路選択では楽しい方を選んだ」という言葉が印象的でした。塾長である前に人生の先輩として興味深くお話を聞きました。

吉岡君